

大学の世界展開力強化事業(平成28年度採択) 神戸大学 取組概要

【事業の名称】(選定年度28年度・タイプA-① CAMPUS Asia))

東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家養成プログラム

【事業の概要】

2011年の東日本大震災および福島第一原子力発電所の事故は、その救援・復旧・復興活動には大きな困難が伴い、自然災害やそれに伴う出来事が国境を越えて通貨危機や安全保障問題にも影響を及ぼすことを如実に示した。さらに2016年に発生した熊本地震は、そうした問題が依然として現在の問題であることを示している。東アジアにはさらに、北朝鮮の核実験など原子力発電所問題にとどまらない核問題、また歴史認識問題など日中韓関係における外交問題など、リスクを伴う懸案事項が山積している。本プログラムは、こうした諸問題に「リスク」という観点から取り組み、社会科学的情問題分析能力と実践的な応用力を身につけた専門家の養成を目指すものである。日本・中国・韓国の東アジア3カ国が国際的な協力体制を整えることは、東アジアのみならず世界においても大きな意味を持っている。本プログラムでは、神戸大学大学院国際協力研究科、復旦大学国際関係・公共事務学院、高麗大学校国際大学院がコンソーシアムを構成し、3大学が有する世界レベルの大学院教育を通して「東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家」を養成する。

【交流プログラムの概要】

本プログラムを実施する神戸大学国際協力研究科および復旦大学国際関係・公共事務学院、高麗大学校国際大学院では、それぞれ英語コースまたは、英語プログラムが開設されているため、英語が本交流プログラムの共通言語である。また、国際的なリスクについて及び、リスクに対する実務的な対処について学べる専門性の高い科目を選択することが可能である。博士前期課程の大学院生を対象に、ダブルディグリープログラム(12か月)または交換留学(6か月/12か月)から選択できる柔軟性の高い交流プログラムである。平成28年度以降、既存の交流プログラム概要に加えて、新たに以下の3つの取り組みを行った:

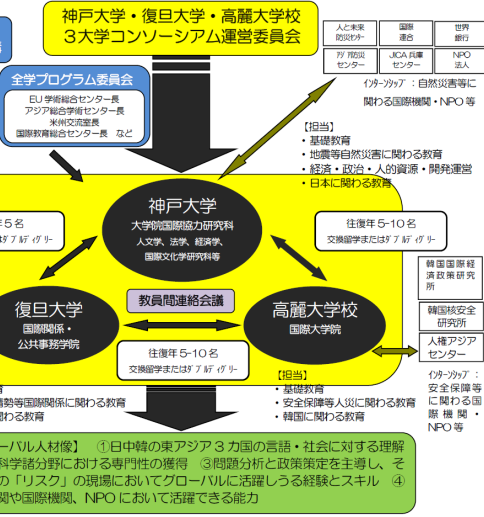
- (1) ダブルディグリー／交換留学プログラムでは、一人の学生が2大学でそれぞれ一学期ずつ交換留学を行なう枠組み(「日中韓トライアングル交換留学」)を制度化した。
- (2) 平成29年度からは学生の派遣・受入を博士後期課程に拡大し、東アジアのリスク・マネジメントに関係する研究を行なう学生を対象に半年間の交換留学を毎年1-2名程度実施し、研究を支援する体制を構築した。これによって博士後期課程の学生が日中韓にて現地調査を行うことも可能になった。
- (3) 従来から実施されてきたインターンシップやフィールドトリップを、コンソーシアム内で発展的に制度化し、単位化する体制を整えた。

【本事業で養成する人材像】

世界に存在する国家間にまたがる諸問題を「リスク」という観点から分析し、最適対応策を提示する(マネジメント)ための専門的な知識とスキルを持った人材を幅広く養成することを目的としている。具体的には、①自然災害時のみならず経済危機、社会情勢危機時におけるリスク・マネジメントに関わる応用力のある専門的な知識とスキルを持った人材、②3カ国が拠点となり日本・中国・韓国に関する政治・経済・人的資源開発・開発運営を含む社会科学全般の専門性を兼ね揃えた人材、③本国語に加えて英語と現地語による政策・実施支援ができるレベルのコミュニケーションスキルを習得することができる人材、④異文化を理解した上で、公共機関や国際機関、NPOにおいて世界の危機時における問題の分析、政策策定を主導し、さらに災害の現場で活躍できる専門家こそ本プログラムが目指す人材像である。

【本事業の特徴】

- **英語での教育研究経験が豊富な教員による留学サポート:** 神戸大学国際協力研究科、復旦大学国際関係・公共事務学院、高麗大学校国際大学院のコンソーシアムを構成する教員はほぼ全員が海外での豊富な英語もしくは現地語による教育研究経験を有しており、これら3大学院はこれまでも世界各地から多くの留学生を受け入れた実績があり、留学生に対する十分な経験とサポート体制が構築されている
- **履修や研究への包括的なサポート:** 神戸大学での受入れ学生については、各講義にティーチング・アシスタント(TA)が任命され、また各学生にチューターが付き、各留学生の研究関心に応じた助言を行い研究生生活がスムーズに進むよう、履修支援や学業全般に対する支援をしている。
ダブルディグリー学生の学位論文執筆に際しては、教育研究補佐員が書き方や内容について助言し、自主ゼミナールをアレンジして助言指導を行っている。これによって1年という限られた時間での学位取得が可能となるよう効率的な論文執筆を後押しする体制が整っている。



東北フィールドトリップ(大槌町)



地震体験 野島断層フィールドトリップ(淡路島)

【交流予定人数】
＜タイプA-①＞

- **インターンシップ・就職支援・産業界との連携:** 国内外の専門家、研究者を招へいして「リスクマネジメントセミナー」を開催している。招聘講師は主に世界銀行、アジア開発銀行など、国際機関で活躍している本研究科修了生が努めている。実務者からの専門的な講義を通じて、将来の東アジア、また、世界レベルで活躍するリスクマネジメント専門家になるために必要な世界基準の教育を行っている。国際機関で就職を希望している学生に対してはインターンシップ先の紹介を行うとともに、英文履歴書の書き方、インターンシップ先で求められるスキルの事前研修を行っている。

	H28	H29	H30	H31	H32
日本(J)での受入	C5 K3	C5 K5	C5 K5	C5 K5	C5 K5
中国(C)での受入	J2 K5	J5 K2	J5 K5	J6 K5	J6 K5
韓国(K)での受入	J9 C4	J11 C2	J11 C5	J12 C5	J12 C5

1. 取組内容の進捗状況(平成28年度)

【事業の名称】 東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家養成プログラム(選定年度28年度・(タイプA-①) CAMPUS Asia)

■ 交流プログラムの実施状況

過去5年間のパイロットプログラムの成功実績を踏まえ、平成28年度からは神戸大学国際連携推進機構の下に全学プログラム委員会を立ち上げ、国際連携推進機構との連携強化のため兼任教員を配置し、大学本部としての実施体制になった。また、従来の3大学実務者会議を教員連絡会へ再編した。以下は平成28年度に実施した活動の一覧である。

- **災害スタディツアーの実施**: 2016年11月神戸市長田区の被災地訪問スタディツアー、2017年2月「東北地方の被災地訪問ー岩手県盛岡市・大槌町を中心に」スタディツアー、2017年2月「野島断層記念館・南あわじ津波防災センター訪問」。
- **国際シンポジウムを開催**: 2017年2月に3大学共同国際シンポジウムを開催し、3大学の教員によるパイロットプログラムの実績を報告、学生による研究成果発表を行い、本事業を学内外に情報発信しコンソーシアムの内容強化について意見交換が行われた。
- **第一回教員連絡会議の開催**: 3大学の教員と事務担当者が一同に会して行っていった従来の会議を「教員連絡会議」に改編したことでダブルディグリー学生と博士後期課程学生の共同指導に向けた話し合いの機会を確保し、年に2-3回開催する体制が整った。
- **インターンシップ先の開拓**: 学生から強いニーズがある就業体験/インターンシップの新規開拓を行うため、ソウルとワシントンDCにある国際機関を訪問、キャンパスアジア生の受入れに積極的な機関と早ければ2017年夏に留学生を派遣することの道筋をつけ、単位認定などの制度化に向けての準備を行っている。

＜タイプA-①＞

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

平成28年度春学期には復旦大学へダブルディグリー学生を2名、高麗大学へは3名を派遣した。秋学期には高麗大学へ1名を派遣した。また、8月と2月に高麗大学で開催されている短期韓国語研修プログラムへは合計5名を派遣した。

○ 外国人留学生の受入

復旦大学と高麗大学からダブルディグリー学生/交換留学生を計7名受入れた。復旦大学からはダブルディグリー学生を3名、交換留学生を3名受入れた。高麗大学からはダブルディグリー学生を1名受入れた。

	H28
日本(J)での受入	C6 K2
中国(C)での受入	J2 K5
韓国(K)での受入	J7 C4

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- 3大学院間では各大学の履修コースのカリキュラムの水準、単位の認定基準、成績基準等を協議し、その質の同等性を確保している。各大学が自国の基準によって評価・認定を行い、最終的にプログラム運営委員会におけるコース修了判定を経て、修了証を交付している。
- 国内外の外部評価委員、理事、副学長をはじめ、国際連携推進機構やその他の関係部局から構成される外部評価委員会を各年度末に実施し、その結果はコンソーシアム委員会および実務者会議にてプログラムの成果チェックを行っている。
- 交換留学制度による取得単位については、各大学の規則に定められた基準に基づいている。また、単位算定方式についてはシラバスを参照しながらその内容を確認し、単位あたりの授業時間を計算の上で、すべて1:1で互換している。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

- キャンパスアジア室による学生支援: 中・韓の各国での教育研究経験を有する専属スタッフが常駐する「キャンパスアジア室」を設置し、研究上、生活上の両面からのサポートを多言語対応できめ細かく行っている。
- 事前教育カリキュラムの整備: 派遣・受入学生のため、語学研修、研究計画作成支援等の事前教育プログラムを実施し、各学生から学習ニーズの聞き取りを実施し、カリキュラムに反映させるシステムを整備している。
- インターンシップやフィールドワークの推進: 受入・派遣後を見据えたキャリアデザイン支援、受入・派遣生の国際機関へのインターンシップ先の開拓、博士後期課程によるフィールドワークの推進を行うことで、修了後のキャリアに貢献できるような学生支援を行っている。
- プログラム拡大への環境整備: 本プログラムを博士後期課程へも拡大し、日中韓トライアングル交換留学の実施、教員連絡会議の定期的な開催をしている。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

- 教育内容の可視化・ホームページの多言語化: パンフレット、ニュースレターを作成し、広報及び成果公表の基盤としてホームページを日英中韓の4言語対応にしている。また、Facebookも立ち上げ、ホームページとも連動し、SNSを通じた交流の拡大を行っている。また、全学ホームページでの告知も行い、定期的な情報発信に努めている。
- 国際共同シンポジウムを3大学の持ち回りで毎年開催し、学生の教育機会と同時に本プロジェクトの成果報告や情報公開としての重要な機会と位置付け2017年2月に神戸にて開催したシンポジウムは学内外から計約80名が参加した。
- 平成29年度からは修了後のサポート体制と同窓会の整備を通じて、キャンパスアジアの活動を広報するとともに、修了生と在学学生、また新入生間のネットワーク形成を構築する。

■ グッドプラクティス等

- 派遣・受入学生とともにインターンシップ先を紹介し、修了後の就職活動に対する助言指導を行うことによって、神戸大学の学生はその語学力や留学経験が高く評価され、UNESCOバンコク、KOICAなどの援助機関やコンサルティング会社など国際的なリスクマネジメントにかかわる民間企業への就職を多数果たした。
- 3大学共同国際シンポジウムを開催することで学生の研究発表の場を与え、3大学の教員からフィードバックをもらうことにより研究意欲を高めることができた。また、進学する学生にとっては模擬学会発表の場を与えることができた。



日中韓3大学共同国際シンポジウム(日本・神戸)

2. 取組内容の進捗状況(平成29年度)

【事業の名称】東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家養成プログラム(選定年度28年度・(タイプA-① CAMPUS Asia))

■ 交流プログラムの実施状況

過去5年間のパイロットプログラムの成功実績を踏まえ、平成28年度からは神戸大学国際連携推進機構の下に全学プログラム委員会を立ち上げ、国際連携推進機構との連携強化のため兼任教員を配置し、大学本部としての実施体制となった。また、従来の3大学実務者会議を教員連絡会へ再編した。以下は平成29年度に実施した活動の一覧である。

- ▶ **被災地研修の実施**: 2017年12月神戸市中央区において被災地スタディツアーを実施した。また、2018年2月には、宮城県仙台市および亶理町を訪問し、東日本大震災被災地研修を実施した。
- ▶ **国際シンポジウムの開催**: 2017年11月に3大学共同国際シンポジウムを開催し、3大学の教員による東アジアにおけるリスク・マネジメントの展望報告、学生による研究成果発表を行い、本事業を学内外に情報発信した。また、3大学教員連絡会を併せて開催し、コンソーシアムの連携強化について意見交換が行われた。
- ▶ **短期プログラムの活性化**: 2017年12月に高麗大学校から2名・復旦大学から1名を神戸大学に招聘して、冬期短期研修を実施した。また、高麗大学校で開催された夏期短期研修には17名、冬期短期研修には神戸大学より11名を派遣した。
- ▶ **インターンシップ派遣**: 前年度に実施したインターンシップの新規開拓の結果、韓国・ソウルのイクレイ東アジア事務局に2名、韓国・仁川のUNESCAP北東アジア事務所に1名、米国・ワシントンDCの世界銀行本部に2名をインターンとして派遣した。

＜タイプA-①＞

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

平成29年前期(9月)に高麗大学校へダブルディグリー生1名、交換留学生2名を、後期(3月)に高麗大学校へダブルディグリー生2名を派遣した。高麗大学校短期研修(8月、2月)には計28名、復旦大学実施の学術大会(7月)に3名を派遣した。

○ 外国人留学生の受入

復旦大学からはダブルディグリー生2名、交換留学生4名、高麗大学校からはダブルディグリー生1名の計7名を受け入れた。また、神戸大学で実施した冬期(12月)には高麗大学校より2名、復旦大学より1名を受け入れた。

	H28	H29
日本(J)での受入	C 6	C 7
	K 2	K 3
中国(C)での受入	J 2	J 3
	K 5	K 4
韓国(K)での受入	J 7	J 33
	C 4	C 11

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- ▶ 3大学院間では各大学の履修コースのカリキュラムの水準、単位の認定基準、成績基準等を協議し、その質の同等性を確保している。各大学が自国の基準によって評価・認定を行い、最終的にプログラム運営委員会におけるプログラム修了判定を経て、修了証を交付している。
- ▶ 国内外の外部評価委員、理事、副学長をはじめ、国際連携推進機構やその他の関係部局から構成される外部評価委員会を各年度末に実施し、その結果はコンソーシアム委員会および教員連絡会にてプログラムの成果チェックを行っている。
- ▶ 交換留学制度による取得単位については、各大学の規則に定められた基準に基づいている。また、単位算定方式についてはシラバスを参照しながらその内容を確認し、単位あたりの授業時間を計算の上で、すべて1:1で互換している。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

- ▶ **キャンパスアジア室による学生支援**: 中・韓の各国での教育研究経験を有する専属スタッフが常駐する「キャンパスアジア室」を設置し、研究および生活上の両面からのサポートを多言語対応できめ細かく行っている。
- ▶ **事前教育カリキュラムの整備**: 派遣・受入学生のため、語学研修、研究計画作成支援等のオリエンテーションや、各学生から学習ニーズの聞き取りを実施し、カリキュラムに反映させるシステムを整備している。
- ▶ **インターンシップやフィールドワークの推進**: 受入・派遣後を見据えたキャリアデザイン支援、受入・派遣生の国際機関へのインターンシップ派遣、博士後期課程によるフィールドワークの推進を行うことで、修了後のキャリアに資する学生支援を行っている。
- ▶ **プログラム拡大への環境整備**: 本プログラムを博士後期課程に拡大したほか、日中韓トライアングル交換留学の実施等、学生のニーズに沿ったプログラム開発を行っている。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

- ▶ **教育内容の可視化・ホームページの多言語化**: パンフレット、ニュースレターを作成し、広報及び成果公表の基盤としてホームページを日英中韓の4言語対応にしている。また、Facebookも立ち上げ、ホームページとも連動し、SNSを通じた交流の拡大を行っている。また、全学ホームページでの告知も行き、定期的な情報発信に努めている。
- ▶ **同窓会の発足**: 平成29年度からは修了後のサポート体制と同窓会の整備を通じて、キャンパスアジアの活動を広報するとともに、修了生と在学学生、また新入生間の情報共有ネットワークを構築した。

■ グッドプラクティス等

- ▶ **キャリア形成支援**: 派遣・受入学生とともにインターンシップ先を紹介し、修了後の就職活動に対する助言指導を行っている。その結果、学生の語学力や留学経験が高く評価され、UNESCOLソト事務所、韓国・国立災害安全研究院といった国際的なリスク・マネジメントにかかわる機関・企業への就職を果たした。
- ▶ **レクチャーシリーズの実施**: 学生のリスク・マネジメントに対する関心・理解を深めることができるよう、国内外のリスク・マネジメント関連専門家を招聘して定期的にレクチャーを実施している。



日中韓3大学共同国際シンポジウム(中国・上海)

3. 取組内容の進捗状況(平成30年度)

【神戸大学】

【事業の名称】東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家養成プログラム(選定年度28年度・(タイプA-①)
CAMPUS Asia)

■ 交流プログラムの実施状況

- ▶ **被災地研修の実施**: 2018年12月神戸市中央区において被災地スタディツアーを実施した。また、2019年2月には、岩手県盛岡市及び陸前高田市において東日本大震災被災地研修を実施し、リスク・マネジメントの実践に対する理解を深めた。
- ▶ **国際シンポジウムの開催**: 2018年11月に韓国・ソウルにて3大学共同国際シンポジウムを開催し、3大学の教員による東アジアにおけるリスク・マネジメントの展望報告、学生による研究成果発表、国際機関の専門家の特別セッションを開催し、本事業を学内外に情報発信した。また、3大学教員連絡会を併せて開催し、コンソーシアムの連携強化について意見交換が行われた。
- ▶ **短期プログラムの制度化**: 2018年12月に高麗大学から1名・復旦大学から1名を神戸大学に招聘して、リスク・マネジメントをテーマにした短期プログラムを実施した。また、復旦大学及び高麗大学が実施する短期プログラムには神戸大学より計17名を派遣した。さらに、復旦大学が実施する国際学生学術コンペの協力に関するMoUを結び、学生交流を制度化した。
- ▶ **3大学共同講義の実施**: 2018年12月、プログラム参加学生以外の学生がリスク・マネジメントに対する関心・理解を深めることができるよう、2回目となる3大学共同講義を神戸大学にて実施した。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

平成30年前期(9月)に復旦大学へ、ダブルディグリー生2名、高麗大学校へダブルディグリー生1名、交換留学生1名を、後期(3月)に高麗大学校へダブルディグリー生2名、交換留学生3名を派遣した。高麗大学校短期研修(8月、2月)には計14名、復旦大学実施の国際学生学術コンペ(7月)に3名を派遣した。

○ 外国人留学生の受入

復旦大学からはダブルディグリー生2名、交換留学生5名、高麗大学校からはダブルディグリー生2名の計9名を受け入れた。また、神戸大学で実施した短期プログラム(12月)には高麗大学校より1名、復旦大学より1名を受け入れた。

<タイプA-①>

	H30
日本(J)での受入	C 8 K 3
中国(C)での受入	J 5 K 2
韓国(K)での受入	J 21 C 6

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- ▶ 国内の外部評価委員、理事、副学長をはじめ、国際連携推進機構やその他の関係部局から構成される外部評価委員会を各年度末に実施し、その結果はコンソーシアム委員会および教員連絡会にてプログラムの成果チェックを行っている。
- ▶ 3大学院間では各大学の履修コースのカリキュラムの水準、単位の認定基準、成績基準等を協議し、その質の同等性を確保している。一方、平成30年度にはリスク・マネジメント科目の共有化が図られ、派遣先の大学の基準に基づいて、リスク・マネジメント科目の修了要件を満たした学生には、3大学共同のプログラム修了証明書を発行することに合意した。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

- ▶ **キャンパスアジア室による学生支援**: 中・韓の各国での教育研究経験を有する専属スタッフが常駐する「キャンパスアジア室」を設置し、研究および生活上の両面からのサポートを多言語対応できめ細かく行っている。
- ▶ **事前教育カリキュラムの整備**: 派遣・受入学生のため、語学研修、研究計画作成支援等のオリエンテーションや、各学生から学習ニーズの聞き取りを実施し、カリキュラムに反映させるシステムを整備している。
- ▶ **キャリア形成支援**: 受入・派遣後を見据えたキャリアデザインの個別相談のほか、国際機関の講師を招いたキャリアセミナーの定期的実施、リスク・マネジメント関連機関への訪問などを行い、受入・派遣生の専門家としてのキャリア形成を支援している。
- ▶ **プログラム拡大への環境整備**: 本プログラムを博士後期課程に拡大したほか、日中韓トライアングル交換留学の実施等、学生のニーズに沿ったプログラム開発を行っている。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

- ▶ **教育プログラムの可視化**: パンフレット、ニュースレターの作成のほか、Facebook及びホームページを連動させ、プログラムの広報及び成果について広く発信に努めている。
- ▶ **国際シンポジウムの拡大**: 平成30年度の国際シンポジウムには、リスク・マネジメント関連国際機関の実務者を招き、本プログラム参加学生の発表に対して実務者の観点からフィードバックをしていただいた。また、実務者の方々からは、本プログラムの人材育成の効果を評価していただき、インターンシップ等の協力関係強化へとつながった。

■ ゲッドプラクティス等

- ▶ **アウトカムとしてのキャリア**: リスク・マネジメント専門家という人材育成の一環として、派遣・受入学生とともにインターンシップ先を紹介し、キャリアを形成できるよう支援をしている。平成30年度は、韓国・ソウルのイクレイ東アジア事務局に1名、韓国・仁川のUNESCAP北東アジア事務所に1名、タイ・バンコクのUNESCOアジア太平洋地域教育事務局に1名、神戸市の国際復興支援プラットフォームに1名をインターンとして派遣した。また、プログラム修了生では、アクセンチュア株式会社、UNICEFエジプト事務所、シエラレオネ日本大使館、といった国際的なリスク・マネジメントにかかわる機関・企業への就職を果たした。



日中韓3大学共同国際シンポジウム(韓国・ソウル)

4. 取組内容の進捗状況(令和元年度)

【神戸大学】

【事業の名称】東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家養成プログラム(選定年度28年度・(タイプA-① CAMPUS Asia))

■ 交流プログラムの実施状況

- ▶ **被災地研修の実施:** 2019年11月神戸市中央区において人と防災未来センター及び被災地スタディツアーを実施した。また、2020年2月には、岩手県盛岡市及び陸前高田市において東日本大震災被災地研修を実施し、リスク・マネジメントの実践に対する理解を深めた。
- ▶ **国際シンポジウムの開催:** 2019年11月に神戸大学にて3大学共同国際シンポジウムを開催し、3大学の教員による東アジアにおけるリスク・マネジメントの展望報告、学生による研究成果発表、キャンパスアジアブックプロジェクト(リスク・マネジメント共同論文集の編集)における特別セッションを開催し、本事業を学内外に情報発信した。また、3大学教員連絡会を併せて開催し、コンソーシアムの連携強化について意見交換が行われた。
- ▶ **短期プログラムの制度化:** 2019年11月に高麗大学校・復旦大学から各5名を神戸大学に招聘して、リスク・マネジメントをテーマにした短期プログラムを実施した。また、復旦大学及び高麗大学校が実施する短期プログラムには神戸大学より計19名を派遣した。
- ▶ **3大学共同講義の実施:** 2019年秋学期、プログラム参加学生以外の学生がリスク・マネジメントに対する関心・理解を深めることができるよう、3大学オンライン共同講義を各3大学にて同時に実施した。

<タイプA-①>

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

令和元年前期(9月)に復旦大学へ、ダブルディグリー生3名、交換留学生1名、高麗大学校へダブルディグリー生2名を、後期(3月)に高麗大学校へ交換留学生3名を派遣した。高麗大学校短期研修(8月、2月)には計16名、復旦大学実施の国際学生学術コンペ(7月)に3名を派遣した。

○ 外国人留学生の受入

復旦大学からはダブルディグリー生2名、交換留学生3名、高麗大学校からはダブルディグリー生5名、交換留学生1名の計11名を受け入れた。また、神戸大学で実施した短期プログラム(11月)には高麗大学校・復旦大学より各5名を受け入れた。

	R1
日本(J)での受入	C 5 K 6
中国(C)での受入	J 7 K 2
韓国(K)での受入	J 21 C 9

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- ▶ 国内の外部評価委員、理事、副学長をはじめ、国際連携推進機構やその他の関係部局から構成される外部評価委員会を各年度末に実施し、その結果はコンソーシアム委員会および教員連絡会にてプログラムの成果チェックを行っている。
- ▶ 3大学院間では各大学の履修コースのカリキュラムの水準、単位の認定基準、成績基準等を協議し、その質の同等性を確保している。一方、令和元年度には、派遣先の大学の基準に基づいて、リスク・マネジメント科目の修了要件を満たした学生には、3大学共同のプログラム修了証明書を発行することに合意した。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

- ▶ **キャンパスアジア室による学生支援:** 海外での教育研究経験を有する専属スタッフが常駐する「キャンパスアジア室」を設置し、研究および生活上の両面からのサポートを多言語対応できめ細かく行っている。
- ▶ **事前教育カリキュラムの整備:** 派遣・受入学生のため、語学研修、研究計画作成支援等のオリエンテーションや、各学生から学習ニーズの聞き取りを実施し、カリキュラムに反映させるシステムを整備している。
- ▶ **キャリア形成支援:** 受入・派遣後を見据えたキャリアデザインの個別相談のほか、国際機関の講師を招いたキャリアセミナーの定期的実施、リスク・マネジメント関連機関への訪問などを行い、受入・派遣生の専門家としてのキャリア形成を支援している。
- ▶ **プログラム拡大への環境整備:** 本プログラムの博士後期課程への拡大及び日中韓トライアングル交換留学の実施を継続し、学生のニーズに沿ったプログラム開発を行っている。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

- ▶ **教育プログラムの可視化:** パンフレット、ニュースレター作成のほか、Facebook及びホームページを連動させ、プログラムの広報内容及び成果について広く発信に努めている。
- ▶ **国際シンポジウムの拡大:** 令和元年度の3大学共同国際シンポジウムには、リスク・マネジメント共同論文集プロジェクト「東アジアにおけるリスク・マネジメント」の執筆者を招き、リスク・マネジメントの理念を理論的および実践的な視点を教員・学生で共有し、リスク・マネジメントの概念を国際的に発信することができた。

■ ゲッドプラクティス等

- ▶ **アウトカムとしてのキャリア:** リスク・マネジメント専門家育成の一環として、派遣・受入学生とともにインターンシップ先を紹介し、キャリアを形成できるよう支援をしている。令和元年度は、韓国・ソウルのイクレイ東アジア事務局に1名、韓国・仁川のUNESCAP北東アジア事務所に2名、タイ・バンコクのUNESCOアジア太平洋地域教育事務局に1名をインターンとして派遣した。また、プログラム修了生では、中国外務省、国際協力機構(JICA)、東京工業大学(研究員)、といった国際的なリスク・マネジメントにかかわる機関・企業への就職を果たした。



日中韓3大学共同国際シンポジウム(日本・神戸)

5. 取組内容の進捗状況(令和2年度)

【事業の名称】東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家養成プログラム

(選定年度28年度・(タイプA-①) CAMPUS Asia)

■ 交流プログラムの実施状況

- ▶ **3大学共同オンライン講義の実施:** 神戸大学・復旦大学(中国)、高麗大学校(韓国)の教員による共同オンライン講義を英語で計画通りに実施し、3大学から60名近くの大学院生が受講した。本講義では、経済学、政治学、国際関係、公共政策、環境学、人的資源開発などを専門とする教員が様々な視点からリスク・マネジメントに関する講義を行った。
- ▶ **論文コンテスト(オンライン)の開催:** 毎年対面で実施しているリスクマネジメント・シンポジウムがコロナ禍で開催できなかった為、大学院生の論文コンテストを開催した。本コンテストでは、リスクマネジメントについて、災害と開発、セキュリティ、金融、科学技術、教育の5つのテーマで公募をし、3大学から30編以上の応募があり、3大学の教員による書類審査を経て、9名のファイナリストが研究成果をZoomで発表した。優れた論文を執筆・発表した学生に対して表彰を行い学生の研究意欲を高めた。本論文コンテストには、キャンパス・アジアプログラム参加学生以外の学生も論文を投稿できるようにしたため、本プログラムの宣伝効果を高める機会につながり、学生の留学意欲の形成および波及効果に貢献した。
- ▶ **リスクマネジメント・オンラインセミナーの開催:** リスク・マネジメント専門家を招聘し、コロナ禍問題を含め世界で起きている様々な課題についての議論を行う機会を提供した。本セミナーによって専門家とオンラインで交流する機会を設けたことで、大学院生のキャリア意識の向上にもつながり、コロナ禍においてもリスク・マネジメント専門家として国際社会で活躍するために必要な実践的な知識やスキルの修得につながった。

<タイプA-①>

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○日本人学生の派遣

令和2年度は、コロナ禍の影響で計画通りに大学院生の派遣・受入ができなかったが、復旦大学にダブルディグリー生2名、高麗大学校にダブルディグリー生3名と交換留学生1名を派遣した。また、高麗大学校短期研修(8月)に2名を派遣した。

○外国人留学生の受入

高麗大学校からダブルディグリー留学生2名を受け入れた。復旦大学はコロナ禍のため全学レベルで学生派遣を中止したため受入学生はなかった。

	R2
日本(J)での受入	C 0 K 2
中国(C)での受入	J 2 K 0
韓国(K)での受入	J 6 C 0

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

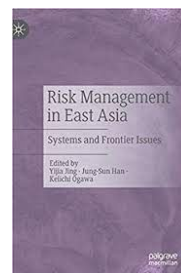
- ▶ 外部評価委員会を令和3年2月に開催し、その評価結果を本プログラムの3大学で形成されるコンソーシアム委員会と教員連絡会にて共有し今後のプログラムの改善について議論をした。外部評価委員会からは、コロナ禍においても学生の交流を継続している点、オンライン共同教育を継続している点が高く評価された。また、3大学共同でリスク・マネジメント修了証明書の発行により教育内容の質保証を実施していることについても今後の本プログラム継続の優位性を示すものとして評価された。
- ▶ **リスクマネジメント修了証明書の発行:** 令和2年度には、派遣先の大学の基準に基づいて、リスク・マネジメント科目の修了要件を満たした大学院生には、3大学の研究科長の署名の入った修了証明書を発行した。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

- ▶ **キャンパスアジア室による学生支援:** 海外での教育研究経験を有する専属スタッフが常駐する「キャンパス・アジア室」において、研究および生活上の両面からのサポートを多言語対応できめ細かく実施した。
- ▶ **事前教育カリキュラムの整備:** 派遣・受入学生のため、語学研修、研究計画作成支援等のオリエンテーションや、各学生から学習ニーズの聞き取りを実施し、カリキュラムに反映させるシステムを実施した。
- ▶ **キャリア形成支援:** 受入・派遣後を見据えたキャリアデザインの個別相談のほか、国際機関の講師を招いたキャリアセミナーの定期的実施、リスク・マネジメント関連機関への訪問などを行い、受入・派遣生の専門家としてのキャリア形成を支援した。
- ▶ **プログラム拡大への環境整備:** 本プログラムの博士後期課程への拡大及び日中韓トライアングル交換留学の実施を継続し、学生のニーズに沿ったプログラム開発を行った。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開、成果の普及

- ▶ **教育プログラムの可視化:** パンフレット、ニュースレター作成のほか、Facebook及びホームページを連動させ、プログラムの広報内容及び成果について広く発信に努めた。
- ▶ **「キャンパスアジア・ブックプロジェクト」による書籍出版:** 3大学の教員が共同で執筆し、Palgrave MacMillan出版社より「Risk Management in East Asia」の書籍を令和3年2月に出版した。本書は、共同講義の教科書として使用する。また、本書は英語で執筆していることから日中韓のみならず世界に本プロジェクトの研究成果を還元することができる、東アジアのリスクマネジメントを深く理解するために極めて重要な書物である。



(「キャンパス・アジア ブックプロジェクト」によって出版した書籍)

■ グッドプラクティス等

- ▶ 国際機関等の専門家によるリスクマネジメント・セミナーをオンラインで開催したり、派遣・受入学生にインターンシップ先を斡旋することにより、キャリア形成支援を行った。
- ▶ 当該年度の本プログラム修了生は、国際協力機構、伊藤忠エネクス、Korea Gas Corporation等のリスク・マネジメントにかかわる機関・企業への就職を得た。
- ▶ 本プログラム修了生に対して卒業後も継続的にキャリア支援等を行ったことで、令和2年度にはユニセフ・スーダン事務所のスペシャリストやユネスコ・アジア太平洋地域事務局のスペシャリストのポストの獲得にも繋がった。